

1. 環境学習コーディネート実施概要 (Web 掲載)

依頼No	4	事例No	4	依頼者	東海市立船島小学校	実施場所	東海市立船島小学校
実施対象	小学6年生2クラス(47名)(クラスごとに実施)						
実施日時	令和4年6月27日(月)9時35分~10時20分、10時50分~11時35分						
テーマ	学校のビオトープ、自然を知るための活動(ビオトープの水を採取し、水質調査を実施する)						

●依頼内容

小学校所有のビオトープを活用した授業の講師を紹介してほしい。

●講師：長谷川 明子 氏 (ビオトープ・ネットワーク中部 会長)

長谷川氏(Ph. D.)は、1級ビオトープ計画管理士の資格を有し、大学や専門学校での講師経験がある。また、自然環境の保全と私たちの暮らしの豊かさとの両立を可能にすべく、執筆や講演会等、自然環境の魅力を楽しく伝える活動に取り組んでいる。2010年に開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)においては、愛知県と名古屋市の生物多様性アドバイザーを務めた。現在、あいちミティゲーション専門家派遣事業(愛知県)の専門家、(公財)日本生態系協会評議員、尾張西部生態系ネットワーク協議会会長等として、幅広く活躍されている。

●授業の内容(授業の構成は2クラス共通)

あいさつと活動 前の準備体操	講師の紹介が行われた後、講師の指導のもと、アクティビティで怪我をしないための準備体操(生物多様性ストレッチ)が行われた。	10分
アクティビティ の説明と実施	講師から、アクティビティの目的や授業の進め方とともに、水の大切さについての説明を行い、行動を開始した。校庭を地球全体にみたと、子どもたちは水の妖精になった気持ちで、サイコロを振り、出た目の指示に従ってビオトープ周辺に設けられた拠点を回りながら、各拠点の指示書に書かれた活動(鳥の声を聞く、お茶を飲むなど)を行った。自然や水に親しんだり、学んだりするとともに、各拠点を達成した特典としてもらえるビーズを集めてひもに通した。	25分
まとめ	アクティビティ終了後、子どもたちは回った水の拠点場所や集めたビーズの数を発表し合い、互いがんばりをたたえあった。講師からは、授業のまとめとして、水は地球規模で見ても有限な資源であり、その循環によって生き物を含めた地球のあらゆる要素がつながっていること、また、私たち人間だけでなく、植物にとっても動物にとっても不可欠な資源であるという話があった。	10分

●授業の様子

当日は、朝から気温が上がったので、アクティビティ中も水分をとる、走らないといった約束事を確認してから授業を始めた。また、熱中症を避けるために、木陰に集合して講師の話の聞いたり、準備体操を行ったりした。子どもたちは、準備体操で風や土、水、動植物等になりきって、両腕を伸ばしたり、ゆらしたり、身体を小さく屈めたりするなど、楽しそうに体を動かしていた。アクティビティでは、9つの拠点すべてを回ろうと何度もサイコロをふる子、効率的に拠点を回る工夫をする子など、それぞれのペースでゲームを楽しんでいた。最後に、水は有限であること、循環していること、人間だけでなくあらゆる生き物にとって不可欠な大切な要素であることといった、まとめの話を聞き、授業を終えた。

準備体操では、風や鳥になりきって身体を動かした。



アクティビティを通して、水の大切さを学んだ。

